

「大沢家庭文庫」35年間の活動に 文部科学大臣賞

個人の家や地域の公会堂などに子どもの本を集めて、小学生やお母さんと一緒に小さな子どもに貸し出ししたり、読み聞かせやおはなし、楽しい行事なども行う「文庫」。35年間こうした活動を続ける「大沢家庭文庫」(大沢5-13-6栗山さん宅・蔵書約3千300冊)が、「子ども読書の日」の4月23日、「子どもの読書活動優秀実践団体表彰」(文部科学大臣賞)を受けました。



「文庫の日」はいつも大盛況(毎週金曜日午後3時~5時)

1建設の際には住民による図書分科会のリーダーとして活躍。49年、市内の文庫(当時31文庫)が集まって結成された文庫連絡会では、市立図書館の5カ年計画への要望書提出を皮切りに、文庫連への市費助成の請願や、学校図書館に司書を配置する請願運動を行ってきた。近年は地元の羽沢小から依頼されて、学校図書館司書と協力して文庫の世話人たちで「おはなし会」などの授業をすること

も多くなりました。

「長い間充実した活動を続けてこられたのは、子どもたちにエネルギーをもらい、周囲のみなさんや家族に支えられてきたおかげ。これからも文庫を通して、子どもたちの心に本への信頼と人への信頼を育て、本やおはなしの楽しい世界を分かちあってほしい」と栗山さんは語ります。

栗山規子さんが子どもに本を手渡す喜びをおぼえたのは、昭和30年代はじめ、都内の私立小学校で新任教師だったころ。当時は、「ママのもの」(福音館書店)が創刊されるなど戦後の新しい絵本が世に出始めたところで、教室で読みかかると44人の目が一斉に本の世界に惹き込まれた様子や、次の朝早く登校し、一人で前日の本をめく

る。野川での野鳥観察、闇鍋パーティーもある「大沢家庭文庫」は近所の子どもの大好きな場所となり、それから35年、毎週文庫の日になると子どもが集まり続けました。この間、世話人の「おはちゃん」として協力したお母さんや地域の方は90人。中には学生どき世話をし、後に図書館学

を学び、現在ニューヨークで児童図書館員として活躍する方や、子ども時代に文庫に通い、母となり世話人の仲間に入ったり、子育てを終え、今度はお孫さんを文庫に連れて再び世話人をしていられる方もいます。

第19回太宰治賞決定 受賞作は小林ゆりさん 「たゆたふ蠟燭」

三鷹市と筑摩書房の共同主催で復活後5回目となる太宰治賞の最終選考会が、5月9日みたか井心亭で開かれ、作家の吉村昭さん、高井有一さん、柴田翔さん、評論家の加藤典洋さんにより、83編の応募作品の中から第19回太宰治賞が小林ゆりさん(写真)の「たゆたふ蠟燭(ろうそく)」に決まりました。

今回の受賞作「たゆたふ蠟燭」は、決して美人とはいえず、性格も暗く、恋も知らずによくよ人生を送ってきた27歳のOLの主人公が、あるきっかけで非日常の夜のステーションの世界に飛び込んでいき、変身を遂げ自己を回復しながら、やがてさらに新しい未知の世界へ旅立っていくという、一風変わった味わいの恋と旅立ちの物語。選考委員の加藤さんは、「物語の骨格が大きく、やむにやまれぬ切迫感、迫力がある」と評価しました。



受賞した小林さんは、埼玉県出身の26歳。大谷大学文学部哲学科を卒業し、現在、会社勤務、京都市に在住。受賞の知らせを受け「とてもうれしい。これからもがんばって書いていきたい」と語っていました。授賞式は6月17日(火)、東京會館(千代田区)で行われ、正賞の記念品と副賞100万円が贈られます。また受賞者は、7月11日(日)に三鷹市芸術文化センターで行われる「太宰治聴く太宰治朗読会」の中でご紹介

する予定です。なお、受賞作および最終候補作のすべてと選考委員の選評などを収録した「太宰治賞2003」は、筑摩書房から6月中旬(予定)に刊行されます。◇第19回太宰治賞最終候補作品 岡本敬三「無言歌」 吉笠一生「ノイラートの船」 小林ゆり「たゆたふ蠟燭」 ◆「太宰治賞」 昭和39年に筑摩書房が創設した小説の公募新人賞で、この賞から、吉村昭さん(市内井の頭在住)をはじめ、宮尾登美子さん、宮本輝さんなど多くの著名作家を世に送り出した。昭和53年の第14回を最後に中断していたが、かねてから三鷹ゆかりの文人たちの文化の薫りを継承したいと考えていた三鷹市が、太宰治の没後50年を機に筑摩書房に呼びかけ、平成10年に共同主催の形で復活した。

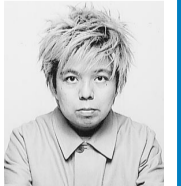
愛好家の みなさんにより開催!

長崎の平和祈念像の作者 北村西望作品展

5月27日(火)~6月1日(日) 三鷹市美術ギャラリーで 長崎の平和祈念像で有名な彫刻家・北村西望の、普段は観ることのできない貴重な作品の展示会が愛好家たちによって、三鷹市などの後援で開催されます。

北村西望は井の頭公園にアトリエを構え、三鷹市の小学生との交流なども行いながら長崎の「平和祈念像」(仙川公園)には原型から作った「平和の像」があります。をはじめ、創作活動を行いました。その作品は自然文化園内の彫刻館で鑑賞することができます。しかしまた多くの作品が、特に余暇に書かれた書画などは個人の所有となり、普段は観ることができません。

1997年、ある地方都市の名もない川の、のどかな土手に若者たちがやって来た。ビデオ映画を撮りに来た東京の若者たちだ。地元の人々を巻き込んで、てんやわんやの怒濤の1カ月ロケが始まり…。これはこの劇団が実際に映画を撮ったときの、実際の出来事を再現したノンフィクションです。しつとりとした人間ドラマを描くことが多かったにんじんボンですが、今回の公演はがらんと変わってセミ・コントなお芝居です。



●KERA MAP#2「青十字」 友の会発表/5月27日(火) 一般発売日/6月8日(日) 8月1日(金)~22日(日) 全席指定 前売 会員=3,600 一般=4,000 当日 会員=4,000 一般=4,400 ●アナザーバージョン 全席指定 前売 会員=900 一般=1,000 当日 会員=1,350 一般=1,500 作・演出:ケラリーノ・サンドロヴィッチ 出演:市川しんぺー・千葉雅子(猫のホテル) 小村裕次郎 旗島伸子

Calendar table for the play 'KERA MAP#2' showing dates from August 1st to 22nd with performance indicators.



◆展示 5月27日(火)~6月1日(日) 午前10時~午後6時/27日は午後1時から、1日は午後4時まで、三鷹市美術ギャラリーで。入場無料。 ↓上杉宅042-555-82751 ◆主権 西望作品展示実行委員会 ◆作品 彫刻30点、書画40点、小品20点 ◆展示 5月27日(火)~6月1日(日) 午前10時~午後6時/27日は午後1時から、1日は午後4時まで、三鷹市美術ギャラリーで。入場無料。 ↓上杉宅042-555-82751 ◆「103歳の書」人生意気感 「若き日の母」

チケットインフォメーション 三鷹市芸術文化振興財団 (三鷹市芸術文化センター内) 電話予約 047-5122 http://mitaka.jpn.org/ チケットのお求め方法 ●電話予約 芸術文化センター047-5122 ●窓口販売 芸術文化センター/三鷹市美術ギャラリー/三鷹市公会堂 ※学生券をお求めの方は当日学生証を拝見します。 ●販売時間・休館日 10:00~19:00 月曜日休館。 ●プレイガイド チケットぴあ 0570-02-9999 友の会MARCL(マークル) 主催事業のチケットに関するいろいろな会員特典があります。(年会費2,000円) ①優先予約、②割引(1公演2枚まで)、③無料郵送(口座振替ご利用の方)、④芸術文化センター内レストランの割引 申込即日から優先予約もできます。お気軽に芸術文化センターへ。

★印の公演には託児サービスがあります。※料金500円、要予約、対象:1歳半から未就学児、定員10名 芸術文化センター風のホール ★セルジオ・ティエンポ ピアノ・リサイタル ~オール・ショパン・プログラム 6月1日(日)18:00開演 全席指定 三鷹市在住・在勤の方=2,700 会員=2,500 一般=3,000 学生=1,500 曲目/ショパン:ワルツ第一番「華麗なる大門舞曲」3つのノクターン 作品9、ソナタ第3番pp.58、ほか 南米ベネズエラ出身で、マルタ・アルゲリッチが絶賛するセルジオ・ティエンポは、3歳にしてデビュー、その類い希なる才能が世界中から注目を集める存在です。 ★沼尻竜典&トウキョウ・モーツァルトプレイヤーズ30 「沼尻竜典の弾き振りによるモーツァルト:ピアノ協奏曲全曲演奏シリーズ3」 6月7日(日) 18:30~18:45 みたかジュニア・オーケストラによるプレ・コンサート 19:00~ 沼尻さんとTMPによる演奏会 全席指定 会員=2,700 一般=3,000 学生=1,500 曲目/モーツァルト:セレナード第11番変ホ長調、ピアノ協奏曲第21番ハ長調、交響曲第41番「ジュピター」ハ長調 日本フィルの正指揮者も務めている、三鷹市出身の沼尻竜典さんのお話と指揮とピアノで、室内楽と協奏曲・交響曲と一緒に楽しみください。また、沼尻さんがアドヴァイザーとなり、TMPのメンバーがトレーナーを務める「みたかジュニア・オーケストラ」によるプレコンサートを行います。 芸術文化センター星のホール ★にんじんボン 「どうだすこいだろう」 6月19日(日)~22日(日) 全席指定 前売 会員=2,200 一般=2,500 当日 会員=2,500 一般=2,800